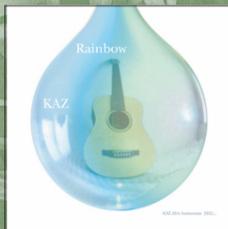


〜 本日のセットリスト 〜

- 01 Yesterday
- 02 もう一度
- 03 あずさ2号 (狩人)
- 04 初恋 (村下孝蔵)
- 05 さんぽ (となりのトトロ)
- 06 明日晴れるかな (桑田佳祐)
- 07 愛は勝つ (KAN)
- 08 太陽が僕らを照らすから
- 09 幸せのメロディー
- 10 忘れてしまった大人たちへ

〜 アンコール 〜

- 11 Message



音楽活動10周年を記念してフルアルバムを完成!!

**「Rainbow」** (税込1,500円) **会場にて発売中!!**

※売上の一部を東日本大震災復興義援金として寄付されます



チャリティー CD 東日本大震災復興応援ソング

**「希望の灯」** (税込500円) **発売中!!**

※売上は全額義援金として寄付されます



## KAZ CHARITY LIVE 2013

– To a heart of children IV –

### 「To a heart of children」の意味

「子どもたちの心に」という意味です。活動を続けていく中で、私たちがの想いや考えを受け止めていただき、その子どもたちが大人になった時に、また次の世代へ繋がっていけばという想いからタイトルを付けました。

### 目的

4年前からはじめた児童養護施設で暮らす子どもたちのために何かできることはないかと考え、ずっと活動を続けてきた音楽ならスタートしやすく伝わりやすいと考えから、ライブを通じて収益・募金、全額を寄付するチャリティーライブをはじめました。最低でも10年はやろうと決めて、今回で4回目の開催になります。



【音楽活動時の名前】KAZ (本名:熊野宏和)  
 【年齢】36歳  
 【職業】有限会社ことのは舎勤務  
 (札幌市中央区南1条西12丁目322)  
 【自身の病名】先天性多発性関節拘縮症(詳細はHP参照)  
 【HP】<http://kaz-sing.com/>  
 【CharityHP】<http://kaz-sing.com/charity/>  
 【Mail】[kaz@kaz-sing.com](mailto:kaz@kaz-sing.com)

## KAZ について

札幌を中心に音楽活動をしている「車椅子の歌うたいKAZ」です。生まれつき身体に障がいを抱え、日々の生活を電動車椅子に乗りながら生活しております。ただ音楽が好きという思いから、不自由な手でもギターが弾ける方法を、自分でギターの弦を上から手で押さえるという弾き方をあみだし、作詞・作曲・歌・ギター演奏までを一人でこなし、人前で歌うようになって11年目になります。

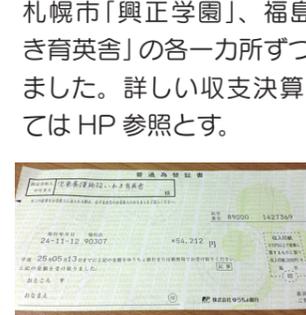
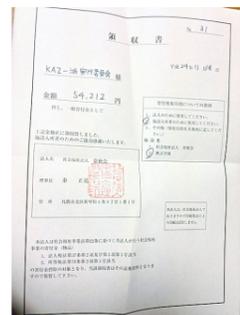
活動の場を福祉の場へも向けるようになり、2010年から児童養護施設で暮らす子どもたちのために何かできることはないかと考えて、自身で企画したチャリティーライブを通じて、チケットの売り上げ、会場での募金、全額を寄付し、少しでも子どもたちが「喜んでもらいたい」という思いから活動を始めました。

## 活動歴

- 2003年11月 テレビ朝日ストリートファイターズで取り上げられる
- 2005年05月 1stCD「Message」発売、11月、2rdCD「ノエル」発売
- 2006年11月 3rdCD「君へノ贈りモノ」発売
- 2008年03月 道新に特集を組まれる、8月、HBC テレビ Hana テレビに特集を組まれる
- 2008年10月 4thCD「桜の木の下で」発売
- 2009年08月 HBC テレビ総力報道! THE NEWS に特集を組まれる
- 2010年09月 チャリティーライブの宣伝で朝日新聞に取り上げられる
- 2010年09月 「To a heart of children」Vol.1スタート
- 2010年10月 児童養護施設訪問が道新日高版、日高報知新聞に取り上げられる
- 2011年07月 5thCD「希望の灯」発売(売上全額東日本大震災復興義援金として寄付)
- 2011年10月 「To a heart of children」Vol.2 開催
- 2012年07月 6thCD「Rainbow」発売(売上の一部を寄付)
- 2012年10月 「To a heart of children」Vol.3 開催
- 歌った場所…テレビ塔、ウイングベイ小樽、歩行者天国、札幌駅、短大、看護学校、福祉施設、ライブバー等。小樽、白老、旭川、日高、帯広、清里町、上砂川、美唄

## To a heart of children Vol.III の活動報告

【ライブ動員数】45名  
 【動員数】45名(実行委員チケット購入含む)  
 【売上総額】108,424円(路上ライブ 10,032円、CD 寄付 10,900円、チケット売上 45,000円、募金 42,492円) + 90,000円(東京海上日動さんから寄付)



札幌市「興正学園」、福島県「いわき育英舎」の各一力所ずつに寄付しました。詳しい収支決算書についてはHP参照とす。



ているようにも見えます。職員の人員を増やしたいという点は大きく残る課題の一つなんだと思います。

施設によって異なるんだと思うのですが、学年によって値段が違うものの小遣いなどももらえたりするんだそうです。お年玉ももらえたりするようです。でも、単にお金や寄付などもらうことが、当たり前ではないんだよという意識を強く持つてもらうために、小遣い帳をつけたり、寄付してもらったことに感謝する思いをもつことには、特に重点を置いて話をしているとのことでした。

大事だなんて常に思うけど、結構環境によっては普通になってきて感謝することもなく過ぎていくことは、別に大人の社会にだってあると思うんですね。だから感謝するという気持ちを、ちゃんと話していける関係作りは大切なことですね。

話の最後に、どういふ形であれ、施設に来てしまった子どもたちには、この施設がHOMEであってほしいと話していました。社会に出て行った子どもたちが、正月などに2~3日泊まっていて、現在の仕事のこととか報告してくれるらしく、多分そういう時が一番嬉しい時なんだろうなって聞いていて思いました。

児童養護施設は、子どもたちにとって救いの場所であると思いますが、一生いれる場所でもないんですね。いつかは社会に出なきゃならないですから。でもふとした時に、実家のように帰れる場所があるかないかだけでも、その後の人生には大きく変わってくると思います。施設がそういう場所でもありたいという話には、児童養護施設の違う一面も見えた気がして、旅立っていった子どもたちとの関係性に妙に感動してしまいました。

ぜひこれからも、今暮らしている子どもたちには安心して暮らせる施設であってほしいし、旅立っていった子どもたちには、ほっと帰ってこれる施設であってほしいと思います。

子どもたちの前で少しお話をさせていただきましたが、いつも若干しどろもどろになるのは反省させられますが、毎回きちんと、この寄付の先にある多くの方の思いが詰まっているということだけは伝えさせていただいております。

今回は私たちの活動に賛同していただきました、東京海上日動の方々からの寄付も別の日になりますが、無事に寄付されました。この場をお借りして、改めてご賛同していただけたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

以上で、簡潔ではありますが、寄付についての報告と活動報告とさせていただきます。

## 報告

【訪問先】児童養護施設 興正学園(札幌市北区新琴似4条9丁目1-1)

【訪問日】11月19日(日)



今回は話し合いの末、原点に帰ろうということで自分たちが住む地域の児童養護施設の状況や現状を知りたいと考えました。

訪問して感じたのは、児童養護施設と言えども各施設ごとに子どもたちに関する取り組みや考え方が違うのに驚きました。別に悪い意味ではなくて、ある程度統一されたもので各施設が成り立っていたかと思っていたので。

いろいろ短い時間内での話となりましたが、数年前に全国的な話題となった児童養護施設ヘラドセルなどを寄付する伊達直人(タイガーマスク)現象がきっかけもあって、国も以前よりは児童養護施設への対応も柔軟化させてきていて2年前に訪れた浦河で聞いた、部活動に参加する際の必要な道具などは国からはお金が出ないので、寄付ややりくりでまかなっていた部分については、必要なものと認められ、購入することができるようになってきたとのことでした。部活での遠征費などもできるようになったとうかがうことができました。そういう部分にはお金がでない聞いていたので、きっかけはどうあれ、少しずつ改善されてきていることに嬉しく感じました。

ただ、国が示す、施設運営に関する人員配置と施設側が捉える人員配置にはギャップがあるようです。小学生以上になると6人に対して職員は1人配置することと、現場で働く職員の想いとしては可能な限り周りを見渡すと、ちゃんと大人がいる、それくらいの環境である方が望ましいという認識でした。小学生と言えども、小1と小6では大人の必要度も違ってくると思える

## To a heart of children Vol. IV の寄付先

昨年まで継続していた東北への寄付活動はいったん終了しまして、道内の児童養護施設を中心に継続していくことにします。ただ東北復興についてはCD販売の売上などで継続していこうと考えております。今年は児童養護施設 歌葉(うたすつ) 洗心学園(北海道寿都郡寿都町字歌葉町歌葉270)に寄付させていただきます。

音楽仲間である友人職員で働いていることもあり、選ばせていただきました。詳しい内容については、KAZ ホームページを通じて公表し、売上や寄付の使い道なども掲載していきます。また来年のTo a heart of children Vol. Vでお渡しするパンフレットにも掲載します。